

〔目的〕今日の若年者は不規則な食生活をおくるものが増加し、身体状況において問題点が挙げられている。沖縄県中学生の300人について食生活に関するアンケート調査を行なった結果、朝食欠食や塾の日の夕食時間や睡眠時間の不規則さがみられた。そこで今回は、アンケート調査に併せて不規則な食生活を長期間続けると身体にどのような変化をもたらすのかを知る目的で2種の系統のマウスについて生存率と体重変化を測定した。

〔方法〕6週齢の2種の系統のマウス(BALB/c, C57BL)を、自由食群15匹(BALB/c 6匹, C57BL 9匹)、制限食群15匹(BALB/c 9匹, C57BL 6匹)に分けた。制限食群(9:00~18:00投与)については8週齢までは自由食群と同じように飼育し、8週齢から11週齢は制限食、12週齢から15週齢までは自由食、16週齢以降は1週間おきに制限した。

〔結果〕現在の生存率は、自由食群BALB/cは50%、C57BLは44.4%であり、制限食群はBALB/cが11.1%、C57BLは66.7%であった。自由食群については両方の系統に差はなかったが、制限食群の場合、BALB/cは生存率が極端に低く、逆にC57BLは、自由食群よりも制限食の生存率が高く両者の系統の間に差がみられた。体重変化においては、BALB/c、C57BLともに自由食群より制限食群の方が体重は増加していた。摂食量についてはBALB/cの場合、自由食も制限食も増減しながらも互いに増加しており、その差はあまりみられない。C57BLの場合は自由食群、制限食群ともに一旦減少し、徐々に増加し始めた。しかし、自由食群の平均摂取量は制限食群より有意に( $P(0.01)$ )多かった。